

町史原稿の主な修正内容(軽微な字句等の修正を除く)

(1) 第一編 前史

資料 1

【編さん委員会意見】

修正箇所	項目	修正前	修正後	説明
第二章第一節 3 ページ	鶴の湯温泉の由来	井上利三郎は、 病鶴がこの沢地に浴して病を癒した との話しを聞き、	井上利三郎は、 病の鶴が沢地に舞い降り、冷泉に浴して快癒した との話しを聞き、	鶴の湯温泉 web サイトを参考に、分かりやすく自然な表現に修正
第二章第六節 9 ページ	農林水産省	安平村は 農林水産省 より標準農村の指定を受け、	安平村は 農林省 (現農林水産省) より標準農村の指定を受け、	旧町史発刊当時の名称に修正し、現在の名称を括弧書で追記 (昭和 53 年 7 月に農林省から農林水産省に改称)
第三章第一節 11 ページ	農林水産省	南部北海道地域道南畑地帯として 農林水産省 から総合助成事業実施の指定を受け、	南部北海道地域道南畑地帯として 農林省 から総合助成事業実施の指定を受け、	旧町史発刊当時の名称に修正 (昭和 53 年 7 月に農林省から農林水産省に改称)。なお、括弧書は初出のみ。
第四章第一節 17 ページ	追分村第一期村議会議員選挙当選者	開票の結果、 松野石太郎・山口繁次郎・谷川功・小野寺慶蔵 などが当選した。	開票の結果 一六人 が当選した。	類似した他の記述 (P6: 安平村第一期村議会議員選挙当選者) に併せ、氏名を削除し人数を追記
第四章第二節 18 ページ	追分町長選挙	翌年二月に追分町長 補欠選挙 が行われた。	翌年二月に追分町長 選挙 が行われた。	補欠選挙とは議員の欠員を補充するための選挙であり、前町長の死去に伴う選挙は補欠選挙とはならない。

【上記以外】

修正箇所	項目	修正前	修正後	説明
第四章第二節 18 ページ	追分町総合開発計画	農業・林業・工業・商業に関わる 基盤整備の確立に主眼を置き 、各振興計画を樹立している。	農業・林業・工業・商業に関わる 現況と問題点をみつめ 、各振興計画を樹立している。	追分町史 (P504) を引用
第四章第二節 20 ページ	追分機関区縮小問題	「鉄道の町」として 発展してきた 追分機関区も廃止の危機に直面し、	「鉄道の町」として その発展に寄与し、追分の中心的存在であった 追分機関区も廃止の危機に直面し、	追分町史 (P343) を引用

(2) 第十一編 観光

【編さん委員会意見】

修正箇所	項目	修正前	修正後	説明
第三章第一節 8 ページ	鹿公園の概要	「鹿公園」は、明治三十五 (以下略) 公園内にはキャンプ場の他、(以下略)	「鹿公園」は、明治三十五 (以下略) 鹿公園の大きな魅力の一つとして、四季折々に変わる豊かな自然環境がある。春にはミズバショウやエゾヤマザクラが咲き、緑溢れる風景が広がる。夏にはスイレンが池に美しく咲き誇り、夜にはホタルが舞い、幻想的な光景が楽しめる。秋にはモミジやイチョウが色づき、公園全体が明るい紅葉に包まれる。冬には雪が積もり、静寂の中にたたずむ木々が幻想的な雰囲気を醸し出す。 公園内にはキャンプ場の他、(以下略)	文章の流れを考慮し、後述の「鹿公園の四季折々の自然」を集約
第三章第一節 9 ページ	鹿公園の四季折々の自然	鹿公園は、豊かな自然環境がその特徴であり、四季を通じてさまざまな植物や動物を見ることができる。春にはミズバショウやエゾヤマザクラが咲き、緑豊かな風景が訪れる人々を出迎える。夏にはスイレンが美しい姿を見せ、さらに夜にはホタルが舞う幻想的な光景も楽しむことができる。秋にはモミジやイチョウの葉が色づき、冬には雪が積もることで、静寂の中に佇む木々が幻想的な雰囲気を醸し出している。鹿公園は季節ごとの自然美を満喫できる場所として、来園者の心を癒している。		文章の流れを考慮し、前述の「鹿公園の概要」に集約

【上記以外】

修正箇所	項目	修正前	修正後	説明
第一章 2 ページ	第二次安平町総合計画における観光施策	この方針に基づき、観光振興の具体的な取り組みが進められた。まず、道の駅を拠点としたプロモーションや情報発信やイベントを行い、観光誘客の強化を図るとともに、交流人口・関係人口の拡大を目指し、回遊・交流ステーションの形成事業を推進した。さらに、民間企業が実施するワイン醸造と連携した特産品のコラボレーションやワインツーリズムの展開、日本遺産「炭鉄港」や「北海道いぶり五大遺産」を活用した広域連携事業の促進にも取り組んだ。 また、官民連携による受入れ体制の構築を検討し、公共施設を活用した合宿誘致の促進に向けて、高校・大学・企業等のスポーツ合宿や大会の誘致を進めた。これにあわせて、早来町民センターの大規模改修に合わせた合宿施設機能の整備も行われた。 さらに、道の駅をはじめとする交流拠点施設の環境整備を進め、あびら交流センターの改修や追分ゲートウェイ整備プロジェクトの実施、回遊交流案内看板の修繕や誘導看板の設置検討などを行った。加えて、高速道路からの一時退出に係る要件緩和を要望するなど、アクセス面の向上も図られた。 加えて、農業体験を中心としたグリーンツーリズムの推進にも力を入れ、収穫体験をはじめとする観光コンテンツの開発を進めた。官民連携による受入れ体制の整備や人材育成にも取り組み、次期あびらグリーンツーリズム推進計画の策定を行った。	この方針に基づく具体的取り組みの中で、最重要施策に位置づける回遊・交流ステーション形成事業の実現に向け、拠点施設である道の駅の整備をはじめ、多くの来訪者と滞在時間の向上を目指し、プロモーションや情報発信、イベントを展開するとともに、公民連携による町内の観光資源を回遊する仕組みづくりを構築した。また、ＪＲ追分駅を中心とした「追分ゲートウェイ整備プロジェクト」やスタンプラリーの実施、キャンプ場の拡充整備など、町内商店街への誘導や地域経済への波及効果を狙いとした事業にも取り組み、加えて、日本遺産「炭鉄港」や「北海道いぶり五大遺産」を活用した広域連携を積極的に進め、関係人口・交流人口の拡大にも寄与した。 一方で、公共施設を活用した合宿誘致の促進に向け、高校・大学・企業等のスポーツ合宿や大会の誘致を進めるとともに、町民センターの大規模改修に併せた合宿施設機能の整備も行われ、さらには、安平町の基幹産業である農業の魅力を通じ地域との交流や情報発信を目的としたグリーンツーリズム事業を展開し、関係機関や就農者・生産者と連携しながら、受入れ体制の整備や人材育成の推進を図った。	「新町まちづくり計画」及び「第一次・第二次安平町総合計画」に準拠し全面修正した記述を、計画期間中における町政執行方針との整合を図ったうえで、再度文章全体を整理
第二章第一節 5 ページ	施設概要と建設	日本で最後にＳＬが走った町でもあり、	日本で最後にＳＬの定期運行が行われていた町でもあり、	ＳＬは現在でも運行していることから、誤解を与えないよう正式な表現に修正
第二章第一節 6 ページ	開業後の展開	開業から一年後の令和二（二〇二〇）年七月三日には来場者が一〇〇万人を達成し、	開業から六年後の令和七年六月十一日には来場者が四〇〇万人を達成し、	直近の数値に修正
第三章第三節 11 ページ	鶴の湯温泉の再生	この温泉は病鶴が沢地に浴して病を癒したとの言い伝えから「鶴の湯温泉」と	この温泉は病の鶴が沢地に舞い降り、冷泉に浴して快癒したとの言い伝えから「鶴の湯温泉」と	前史に統一
第三章第四節 13 ページ	菜の花さんぽ	この年の「菜の花さんぽ」には、約十七万人もの来場者が訪れ、	令和七（二〇二五）年の菜の花さんぽ開催月間には、約十九万人もの来場者が訪れ、	直近の数値に修正
第三章第六節 14 ページ	ノーザンホースパークマラソンの歩み	参加者数は、平成二十三年の一三三〇人から、平成二十七年には二一二人規模へと拡大し	参加者数は、平成二十三年の一三三〇人から、令和七（二〇二五）年には四四四九人へ拡大し	同上